

尼ト成事不可有、又不カナル人ニモ相馴給へ、露恨トハ思マジナド、細ヤカニ搔口談ケレバ、彼女房何トモイラヘハセズ、唯涙ニ咽テ在ケルガ、用アル様ニテ、傍ヘ立ノキ、刺刀ニテ兩ノ小鼻ヲ立様ニ二所裁割、縁ノ髪ヲ肩ニダモ掛ラズ、押切テ立出、忠興ニ向、又人ニ見エザラント思ヘバ、カ、ル姿ト成テ候ト云、略程ナク、忠興死去シケレバ、彼女ハ、ヤガテ藝州奴田ノ佛通寺ニ入テ、朝參暮扣ニ身ヲ抛テ、女子出定ノ話頭ヲ舉シケルガ、蝴蝶ノ花ノ陰ニ眠リツ、吹トモシラヌ春風ニ夢サメテ、翅カクハシゲニ飛去ヲ見テ、忽悟ノ旨ヲ得タリケリ、

〔陰德太平記六十〕土佐勢與州出陣附岡本城合戰之事

此合戰ニ虎之介之内竹并ニ聳也ケル彌藤次討レヌト云、虚説、岡豊ニ至テ聞エタリ、彌藤次ガ妻是ヲ聞、女ノハカナサハ、其實不ヲモ正サズ、實淺マシキ吾身哉、父ト夫ノ一度ニ討レサセ給フ事ノ不幸ハ、コレソモ何ノ報ヒゾヤ、今ハ生テ何カセン、左無ダニ、ウキフシ滋キ世間ニ、年月ヲ送ランヨリハ、唯一日モ早ク死シテ、安養不退ノ報土ニ生レ、一ツ蓮ノ坐ヲ并ベバ、何ノ思ノアルベキト、只一筋ニ思切、落ル涙ノ水莖ニ、事ノ後前正シク認メ置、頓テ自害シテ、○又見土佐軍記、宇和郡死ニケレ、

〔太閤記十四〕秀吉公憐於夫婦之間事

薩州島津内小野攝津守ゆうにやさしかりし息女を侍りしが、肥前龍造寺が家臣瀬川采女正に嫁す、采女正高麗在陣之折ふし、彼妻あこがれし思ひのほどを、聊物に去るし侍りしを、便の船にことづてをくりけり、折ふし難風おびた、しう吹來て、船はそんし、荷物博多の浦へ寄來るを、漁夫拾ひ上侍りしが、其中に澀ぞめやうの紙にて、能つゝみたる物あり、ひらいて見れば、文箱とおぼしき物侍りしを、ほどきみれば、まきゑなどもけだかく、よのつねならぬ文匣なり、いやしき者などの致披露物にあらざむめりとして、所の吏務へさしあげぬ、吏務請取つゝ、將軍之御前衆